

O-14-5

超高齢者のTKA後、Redcord を使用した 体幹機能へのアプローチが歩容改善に効果を 上げた一症例

越山晴菜

立正佼成会附属佼成病院リハビリテーション部

key words : Redcord ・ 超高齢者



ISSN 0916-9946

第41回
関東甲信越ブロック理学療法士学会
プログラム・抄録集

新しいスタンダードの構築に向けて
—令和の理学療法の進み方—

会期
2022年9月10日(土)・11日(日)
【ライブ開催】2022年9月10日(土)・11日(日)
【オンデマンド開催】2022年9月10日(土)～30日(日)

会場
日本教育会館
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

学会長
林 弘康
八王子保健生活協同組合 城山病院 リハビリテーション部

主催：日本理学療法士協会 関東甲信越ブロック協議会
担当：公益社団法人 東京都理学療法士協会

【はじめに、目的】

人工膝関節置換術後（以下 TKA）の理学療法について南野らは体幹機能に対するアプローチの重要性を説いている。今回右側TKAを施行した90代の超高齢女性を症例とし、術後早期からRedcord（以下 RC）を使用して体幹・下肢を中心とした機能練習を実施した結果、歩行率と歩行距離が改善した経験を得たため以下に報告する。

【方法】

術前は、歩行時スウェイバック姿勢（以下 SW）にて右立脚期膝関節外側スラスト・反張膝が著明でありウォーカー歩行10m が限界であった。術後2日より RC を使用し、下肢マルアライメントの修正を意識した体幹下肢筋力強化練習を開始した。術後5日から歩行・段差昇降練習を追加し、術後2週にて両側T字杖歩行を実施した。術後1か月で10m 歩行テスト・6分間歩行テスト（以下6MWT）を評価し、歩行率（step/min）を算出した。

【結果】

10m歩行テストは、術前：20.8秒 32歩、92.5step/minから術後：17秒 27歩、95.3step/minに改善。6MWTも術前 0m から術後152m と大幅な改善が認められた。SWの軽減に加え、術後 1ヶ月で歩行時の右膝関節外側スラスト・反張膝が消失し両側T杖にて200m以上の歩行が可能となった。

【考察】

RCでの体幹下肢運動は、骨盤・下肢懸垂による体幹・下肢後面筋の緊張緩和に加え、腹横筋・大腿四頭筋・殿筋群の運動連鎖を伴った筋力強化が同時に可能である。これにより体幹安定性が向上し歩行能力改善に至ったと考えられる。また、RC は同一姿勢の再現性が高く、患者年齢や理学療法士の経験年数による影響を受け難いため、本症例は超高齢であっても1ヶ月という短期間で歩行率改善を達成することができた。

【結論】

RC を使用した体幹下肢へのアプローチは、急性期病院の限られた入院期間においてTKA 後の歩容や歩行能力の改善に有効であると推測する。

【倫理的配慮】

ヘルシンキ宣言に則り、文面と口頭にて本症例発表について説明し、対象となることについて同意を得た。